

令和7年度 星槎大学・大学院入学式学長式辞

ただいま、星槎大学共生科学部 969 名、大学院教育学研究科修士課程 27 名、同 後期博士課程 4 名、教育実践研究科専門職学位課程 16 名に、入学の許可をいたしました。

令和7年度星槎大学・大学院入学式に当たり、お祝いの言葉を申し上げます。おめでとうございます。

星槎大学は 2004 年、北海道芦別市に開学し、おかげさまで、昨年 20 周年を迎えました。

大学院では、教育学研究科修士課程が 2013 年、教育実践研究科専門職学位課程が 2017 年に開設され、教育学研究科後期博士課程が 2020 年に開設されました。

今までの累計在籍者数は、39,693 名に達しております。大学在籍者の平均年齢は 35 歳で、大学院在籍者の平均年齢は 47 歳です。

お仕事をされながら学ぶ学生と専門学校や他大学で学んでいる学生など、様々なバックグラウンドをもつ学生が共に学んでいます。

星槎大学・大学院の特徴の一つに、他の職種の方々と様々な課題についてディスカッションし、学ぶことがとても有益で、互いに高め合うことができ、相乗効果を生み出していることがあります。是非期待していただきたいと思えます。

建学の精神には、『社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り拓き、それを成し遂げる。』とあり、創設者の宮澤保夫名誉会長の想いが述べられています。

社会がどのようなことを望んでいるのか？中学校を卒業した生徒が、高校に行きたくても行けない！ということを知り、通信制高校・宮澤学園を創り、こうした子供たちを理解できる大人、先生を育成するということで大学を創りました。そして、更に現場の最前線にいらっしゃる社会人の課題解決を図るべく「広い視野と深い専門性」を磨いていくために、理論と実践の往還を目指した大学院を創りました。

教育実践研究科は、専門職大学院で教育分野の認可は初めてで注目されています。そういう意味で、星槎は『常に新たな道を切り拓くパイオニア』であります。『人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献することを目的とし、『共生』という理念で結ばれる、教育、福祉、環境、国際関係及びそれらを横断する広い知力、共生する心の耕作、様々な課題を前向きに解決しようとする課題探究能力の育成、特別支援教育を担う教師等の育成を目指しています。』

横浜では澄み切った青空の下、桜の花も春の嵐にも負けず、咲き誇っていました。Zoomによるこの入学式には、北は北海道から南は沖縄県の皆さんが参加されています。

これから皆さんは、自学自習が基本となります。お仕事や勉学で忙しいのに、更に勉強の時間を生み出すのが大変かと思えます。そうした中で、対面の授業やZoomによる授業で、全国の同じ志を持った仲間と語りあい、情報交換をすることで不安の払拭ができると思えます。

また、今年度より初年次の教育に力を入れ、スムーズに学修に入れるよう支援していきたいと考えています。是非、グーグルクラスルームの『初年次学修サポートクラスルーム』をクリックしてみてください。

さて、皆さん方には、「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」という共生の考え方を学んで欲しいと願っています。

国際社会においては、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区への空爆と、かけがえのない命が失われ、大変憂慮すべき状況であります。収束しそうな状況も見えそうで見えません。一刻も早く停戦し、平和が訪れることを願わずにはられません。

また、アメリカ合衆国トランプ大統領によるアメリカ第一主義、トランプ関税と言われるような法外な関税など、共生の理念とは程遠い状況です。

星槎大学並びに大学院で充実した学びをしていただき、自らの目標を達成するとともに、仕事場、そして、社会で貢献するリーダーとなることを期待して式辞といたします。

令和7年4月12日
星槎大学学長 西村 哲雄